

文章題テスト・小説(2)

月 日
名 前

10
問正解

★次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

(小学五年生の宇佐子は、同級生のミキちゃん——ちよっと変わった子でクラスになじもうとしない——のことが気にかかっている。ある日の学校帰り、宇佐子はミキちゃんのとをそっとつけていった。)

団地の建物は、いくつかのブロックに分けられていて、ブロックごとに垣根の木の種類がちがう。垣根の中は、ちよっと他人の家のニワか何かのような感じがして、入りにくい。宇佐子はからたちの垣根の外側からそっと静かな団地の中をのぞいた。三輪車がほり出してあった。

だれのすがたもないだろうと思つてのぞいたからたちの垣根の内側で、ミキちゃんがこちらを向いてすました顔をしていた。いったい、いつ、宇佐子がいるのに気づいたのだろう。宇佐子はミキちゃんと目があつたしゆんかん、まるで小さな動物みたいにびくつとした。ミキちゃんが手招きをするから、宇佐子はそつとからたちの垣根の中に入っていった。階段をはさんで左右に建物が並んでいる団地の入り口でミキちゃんは宇佐子が来るのをマッていた。

「ここが家なの。遊んでいって」

ミキちゃんは宇佐子にそう言った。ミキちゃんの家は四階だった。

「ここが家なの」

ミキちゃんはだまっている宇佐子にまた同じことを言った。宇佐子はランドセルのベルトを手でおさえながら考えこんでしまった。ランドセルをせおつたまま遊びに行つてはいけないと学校でも家でも言われていた。そのきまりをやぶつたことはこれまで一度もなかった。友だちの家に遊びに行くのは、

いったん家に帰ってからというのは、宇佐子のからだにしみこんだきまりになっていた。それなのにミキちゃんは宇佐子がせおっているランドセルなど目に入らないかのように、当たり前前に「遊んでいって」と言う。
 宇佐子がだまっていると、ミキちゃんはべつ⁴のことをシンパイ^オしていると
 思ったらしい。

「だれもないから。上がって行って」

そう言った。言い終わると、もう宇佐子はついてくるものと決めたみたい
 に階段を登り始めた。宇佐子はランドセルのベルトに手をかけたまま、まよ
 っていたが、意を決して階段を上り始めた。

(中沢けい「うさぎとトランペット」による)

(注) 垣根…しき地などのくぎりをつけるための草木を使ったかこい

からたち…ミカン科の落葉低木 意を決して…決心して

1 線ア〜オについて、漢字は読みをひらがなで書き、カタカナは漢字で書きなさい。

ア	イ	ウ
エ	オ	

2 線「まるで小さな動物みたいにびくっとした」とありますが、このようすから、
 宇佐子のどのような気持ちが読みとれますか。最もふさわしいものを、ア〜エから
 選んで、記号に○をつけなさい。

- ア おそろしくなった イ びっくりした
 ウ しんぱいになった エ うれしくなった

3 線2「ここが家なの」とありますが、ミキちゃんの家はどこにあるのですか。
 次の□に当てはまる言葉を、文中から二字で書きぬきなさい。

□の建物の四階

4 線3「宇佐子はランドセルの……考えこんでしまった」とありますが、このとき宇佐子はどのようなことを考えていたのですか。最もふさわしいものを、ア～エから選んで、記号に○をつけなさい。

ア ミキちゃんの家には行ってみたいけれど、あまり話したことがないのに楽しく遊べるかな。

イ ミキちゃんの家には行きたくないけれど、はっきりことわるのは悪いような気がするし、こまったな。

ウ ミキちゃんの家には行ってみたいけれど、学校帰りに友だちの家に遊びに行くのはいけないことだし、どうしようかな。

エ 学校帰りに友だちの家に遊びに行くのはいけないと知っていてさそうなんて、ミキちゃんはいじわるだな。

5 線4「べつのこと」とは、どのようなことですか。次の□に当てはまる言葉を、五字でいどで書きなさい。

ミキちゃんの家には、ほかにも

のでは

ないかということ。

6 この文章から読みとれる「ミキちゃん」の性格として最もふさわしいものを、ア～エから選んで、記号に○をつけなさい。

ア 短気で、おこりっぽい

イ 気が弱くて、さびしがりや

ウ 少し自分勝手に、せっかち

エ 気が強くて、負けずぎらい